

ライフステージで変化する子ども部屋

親子のふれあいを大切に、成長に合わせた子ども専用スペースを作りましょう

子どもの成長とともに子ども部屋の使い方は変化します。子どもが個室を必要とする期間は意外と短いもの。新築時は構造の許す限り間仕切り壁を最小限にとどめ、広く開放的な多目的空間にすることをおすすめします。

将来、子どもの成長や人数に合わせて仕切ることができます。子どもが巣立った後は、夫婦それぞれのパーソナルスペースにしてもよし、客室にしてもよし。ライフステージの変化に柔軟に対応できる子ども部屋にしましょう。

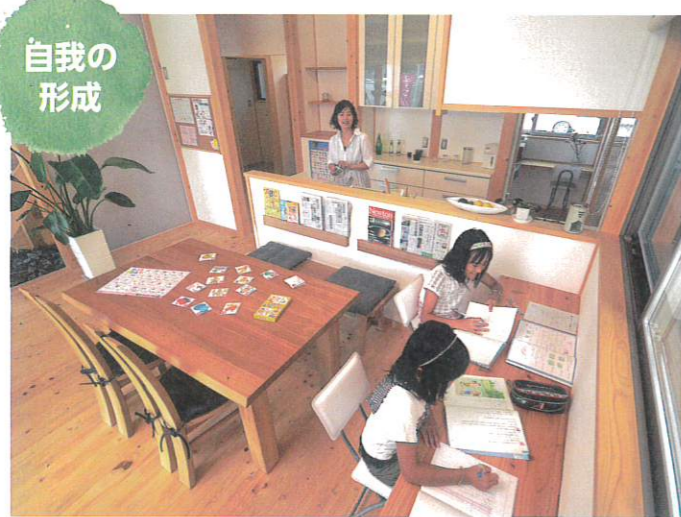


① 幼児期

親の目の届くところで遊ぶ

安全にハイハイ、よちよち歩きができる広い空間で親子一緒に遊びます。子どもはこの時期の親子の絆を基盤にして成長します。個室は時期尚早、まずは専用のおもちゃ箱で、自分のものに責任を持たせる練習を。成長に合わせて壁や家具で仕切ります。

自我の芽生え



自我の形成



自立の準備



② 小学校低学年

宿題は家族のそばで

専用の机を用意し、自分の領域を管理する意識を持たせましょう。写真はダイニング横に設けた学習コーナー。親は家事をしながら子どもの様子を見守ることができます。

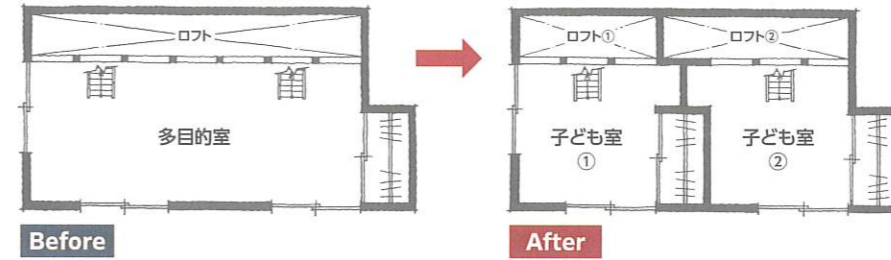
③ 小学校高学年

一人になりたい時は子ども部屋へ

子どもが自分の世界を持ち始めたら自立の準備。プライバシーを尊重する環境を整えます。必要以上に広く快適な子ども部屋は考えもの。出てこなくなります。わが子を個人として認め、親子の信頼があれば、鍵は必要ありません。無断で入らない、必ずノックする、などのルールを家族で決めましょう。

子ども部屋の間仕切り工事实例

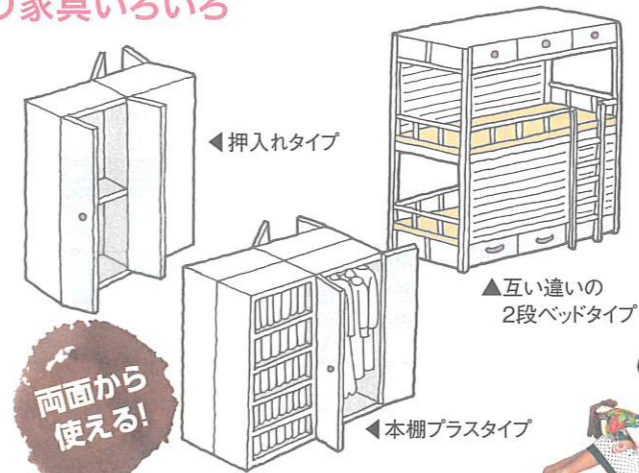
築後10年の「雨楽な家」施主様宅で、子ども部屋の間仕切り工事を行いました。中学生と小学生の姉弟のために、オープンだったスペースに間仕切り壁と収納を設置。ロフトも仕切りました。新築時から将来、二つに仕切れることを考慮して建具・照明スイッチや窓、ロフトに上がるはしごなどが配置されていたので、作業はスムーズに進み、工事完了。条件がそろったバランスの良い2部屋が完成しました。



可動式の間仕切り家具いろいろ



間仕切り家具を成長とともに追加していくのもオススメ



両面から使える!

子ども部屋3つのルール

- 1 玄関から子ども部屋の間にLDKを通ること
 - 2 LDKの家族の気配が子ども部屋に届くこと
 - 3 広くて快適すぎる子ども部屋にしないこと
- 家族と程よい距離を保ちながら自然とコミュニケーションがとれる子ども部屋が理想です。

今月の「雨楽な家」 山梨県・U様邸

玄関以外は上下分離 思いやり二世帯住宅



シンクとテーブルが一直線、会話がはずみ家事もラクラク。



リビングの勉強スペースで宿題もはかどります。

白い清楚な外壁に軽やかな切妻屋根のシンプルデザイン。



1階は親世帯、2階は子世帯。玄関は土間収納で大容量を確保。2階リビングは東半分が個室にもなる柔軟なプランニング。耐震等級3で安全安心。テイストは「urac and」でシンプル&ビューティ。